

中施策評価書

作成日 令和07年 11月 6日

中施策事業名	家庭児童相談室事業	部課名	健康福祉部・子育て支援課
		作成者	松村 清子
①めざすまちの姿	01 子ども、高齢者、障がい者等への虐待やDVなどがない		
②大施策	子ども高齢者障がい者等への虐待やDV等を減らす		
③中施策	家族等、子ども、高齢者、障がい者等を支援する人の日常生活に関する悩みや不安を解消する		
④中施策事業の対象	児童及びその家族、関係者等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	日常生活に関する悩みや不安を解消する場があることを知っており、それを活用することにより、地域での孤立や問題の重篤化を予防できている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・家庭児童相談室事業 ・サポートブック事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
家庭相談室の相談 件数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	2,700	2,700	2,700	0	0	0
	実績値	3,109	5,504				
単位	件						
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				3, 166千円	4, 614千円	
	a 事業費合計			3, 166千円	4, 614千円	9, 749千円
	人 件 費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
② 補助金等（収入）				1, 420千円	5, 512千円	11, 588千円
③ コスト（①－②）				1, 746千円	-898千円	
市民一人あたりコスト （③／市の人口（評価対象年度末時点））				25 円	-13 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価 A</p> <p>評価指標の相談件数は児童虐待を除くすべての項目で増加し目標値を上回った。これは、各種相談窓口にかかるホームページの作成等により子育てにかかる不安や悩みを解消する場の周知を強化し、こども家庭センターの設置に伴う児童福祉部門、母子保健部門のより緊密な連携や、複数機関での見守りにより家庭全体の支援を強化し、複雑多岐にわたる課題を抱えた家庭に対し多面的な支援に取り組んだ結果、児童虐待の相談件数は減少し、他の相談件数が増加したものとする。</p>
-----------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	ヤングケアラーに関する啓発を行い、ヤングケアラー自身が相談しやすい環境を整えるなど、支援体制を強化する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	地域における子育て世帯の孤立を防止するため、関係機関と地域における見守り体制について協議する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 11月 6日

中施策事業名	児童虐待・DV対策事業	部課名	健康福祉部・子育て支援課
		作成者	松村 清子
①めざすまちの姿	01 子ども、高齢者、障がい者等への虐待やDVなどがない		
②大施策	子ども高齢者障がい者等への虐待やDV等を減らす		
③中施策	関係機関と連携して早期発見と素早い対応に努める		
④中施策事業の対象	・ 要保護児童及びその家族、関係者等 ・ DV被害者及びその家族、関係者等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市民や関係機関が虐待やDVについての知識を持ち、必要な時に通報や連携支援を行うことにより、対象が早期に必要な支援を受けることができている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 要保護児童対策地域協議会 ・ DV相談事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
要保護児童対策地域協議会の管理家庭数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	70	70	70	0	0	0
	実績値	40	42				
	単位 件						
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
	単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				7, 143千円	10, 745千円	
	a 事業費合計			7, 143千円	10, 745千円	12, 991千円
	人 件 費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
	② 補助金等 (収入)				2, 840千円	11, 024千円
③ コスト (①－②)				4, 303千円	-279千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				63 円	-4 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価 A 要保護児童対策地域協議会で見守る家庭の数は前年度に比べ増加したが、目標値を下回った。これは、令和6年度のこども家庭センターの設置に伴い、家庭相談員を増員し、複数機関と連携して課題が深刻化する前に家庭支援に取り組んだため、目標値を下回ったためと考える。
-----------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	要保護児童対策地域協議会で用いる資料の改良等により、関係機関の管理家庭に対する目標の共有や理解を促進し、家庭に対する支援体制の充実を図る。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	児童虐待家庭が地域で孤立することに伴う虐待の発見の遅れや深刻化を防ぐため、関係機関や地域における見守りを強化する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 6月 18日

中施策事業名	児童扶養手当給付事業	部課名	健康福祉部・子育て支援課
		作成者	松村 清子
①めざすまちの姿	16 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困ってない		
②大施策	支援が必要な家族の負担を軽減する		
③中施策	家族を支援するサービスを充実させる		
④中施策事業の対象	ひとり親家庭の児童及び保護者等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	支援をもれなく受けることにより、経済的負担が軽減し、安定した生活を送ることができている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 児童扶養手当 ・ 愛知県遺児手当・豊明市遺児手当		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
現況届回収率	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	99.8	99.8	99.8	0	0	0
	実績値	98.3	97.8				
単位	%						
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				184, 838千円	178, 977千円	
	a 事業費合計			184, 838千円	178, 977千円	174, 818千円
	人 件 費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
② 補助金等 (収入)				56, 198千円	54, 132千円	52, 303千円
③ コスト (①－②)				128, 640千円	124, 845千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				1, 869 円	1, 814 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価A</p> <p>現況届の回収率は引き続き若干減少したが、必要な方への支援は実施することができた。例年どおり8月の一か月間、来庁を原則として事業を行い、対面により直接聞き取ることで、対象家庭の状況をより確実に把握することができた。また、案内や申請の手続きの中で、ひとり親になられたばかりの親御さんの困りごとや悩み事も傾聴し、寄り添いながら相談を実施し、必要な支援につないだ。</p>
-----------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	令和6年度の制度改正により、所得制限等の要件が緩和されたため、より一層対象者への周知を徹底し、もれなく支給手続きを行う。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	引き続き、国等の動向を注視しながら、手当による経済的支援のみならず、ひとり親家庭の個々の状況に応じた、複合的な支援を継続していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 6月 18日

中施策事業名	ひとり親支援施策事業	部課名	健康福祉部・子育て支援課
		作成者	松村 清子
①めざすまちの姿	16 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困ってない		
②大施策	支援が必要な家族の負担を軽減する		
③中施策	多様な主体者が連携し、家族を支える環境をつくる		
④中施策事業の対象	ひとり親家庭の児童及び保護者等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	安定した就労や日常生活に関する支援を受けることにより自立した生活が送れるようになる		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 自立支援相談事業 ・ 母子自立支援給付金事業 ・ 母子日常生活支援事業 ・ 母子家庭等児童入学記念品事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
ひとり親家庭の相談支援件数（実件数）	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	45	45	45	0	0	0
	実績値	45	42				
単位	件						
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				6,484千円	9,697千円	
	a 事業費合計			6,484千円	9,697千円	9,879千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計			0千円
② 補助金等 (収入)				4,588千円	5,526千円	7,103千円
③ コスト (①－②)				1,896千円	4,171千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				28 円	61 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価A</p> <p>ひとり親家庭の相談件数としては前年度より若干の減少となったが、件数以上に窓口での児童扶養手当の申請等のやり取りの中でも丁寧に寄り添いながら対応したことで、めざすまちの姿の実現に寄与することができたと考える。また、様々な課題を抱えるひとり親家庭に対して、日常生活支援事業を活用して、自立に向けての支援を開始することができた。これまで地域福祉課が困窮世帯を対象に実施してきた子どもの生活・学習支援事業を今年度より児童扶養手当受給者も対象として実施した。</p>
-----------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	子どもの生活・学習支援事業を令和6年度よりひとり親家庭に向けても実施したが、学習の場だけでなく子供の居場所として、委託事業者とともにより一層の支援に取り組む。また、ハローワークとの協定に基づき、引き続き連携を図り、ひとり親家庭の自立に向けて、より効果的な就業支援・セミナー等を行う。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	ひとり親家庭への支援施策は、生活支援・就業支援・経済的支援など他分野にわたり、相互に関連するため、個々のニーズに応じた複雑な組み合わせが必要となる。引き続き、ひとり親家庭の多様なニーズをキャッチし、重層支援センターを含めた多様な主体者へ適切につないでいく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 6月 18日

中施策事業名	児童館管理運営事業	部課名	健康福祉部・子育て支援課
		作成者	松村 清子
①めざすまちの姿	17 子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動している		
②大施策	子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動できるまちをつくる		
③中施策	地域ぐるみで子どもを育て、見守る環境をつくる		
④中施策事業の対象	児童及びその家族、関係者等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	児童館を拠点とした子育て支援事業や地域との連携した事業により、地域ぐるみの子育てができている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 児童館の維持管理・運営事業 ・ 児童館の指定管理事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
児童館利用者アンケートにおける満足度の割合	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	100	100	100	0	0	0
	実績値	95.6	100				
	単位 %						
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
	単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額	
				令和05年度	令和06年度	令和07年度	
① 総事業費 (a+b)				121, 570千円	247, 435千円		
	a 事業費合計			121, 570千円	247, 435千円	144, 616千円	
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人		
			b 金額	0千円	0千円		
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人		
			金額	0千円	0千円		
			人件費合計			0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)			0千円	5, 292千円	0千円
③ コスト (①－②)			121, 570千円	242, 143千円			
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))			1, 767 円	3, 519 円			

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価 A</p> <p>児童館利用者アンケートにおける満足度は目標を達成した。令和7年度からの指定管理者の更新にあたり、5年間の実施状況を踏まえて仕様を策定し、公募型プロポーザルにより次期指定管理者を選定した。また、ひまわり児童館を大規模改修したことにより決算額は増加したが、南部地域の地域子育て支援拠点として子育て支援センターを併設し、一時預かり事業を開始するなど、機能の拡充を図った。各児童館とは定期的に連絡会議を行い、児童館同士の連携強化を図った。</p>
-----------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	子どもだけでなく、多世代の市民が交流する場として、ひまわり児童館に交流スペースを設置したが、子どもや子育て世帯以外の市民に利用してもらうための施策を指定管理者とともに検討する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	ひまわり児童館で実施している一時預かり事業について、国が実施する子ども誰でも通園事業への対応も含めて、今後の実施について検討が必要となっている。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 11月 10日

中施策事業名	児童福祉地域活動事業	部課名	健康福祉部・子育て支援課
		作成者	松村 清子
①めざすまちの姿	17 子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動している		
②大施策	子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動できるまちをつくる		
③中施策	地域ぐるみで子どもを育て、見守る環境をつくる		
④中施策事業の対象	児童及びその家族、関係者等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	地域が主体となった子育て支援事業や地域との連携した事業により、地域ぐるみの子育てができています		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 民生児童委員事業 ・ 児童遊園地設置費等補助事業 ・ 子ども会活動費補助事業 ・ 地域組織育成費補助事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
補助団体で活動する人数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	185	185	185	0	0	0
	実績値	176	178				
単位	人						
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				6,435千円	7,845千円	
	a 事業費合計			6,435千円	7,845千円	7,257千円
	人 件 費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計		0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)			0千円	0千円
③ コスト (①－②)			6,435千円	7,845千円		
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))			94 円	114 円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価 A 区や町内会が管理する児童遊園地の遊具等の修繕費等への補助を行ったほか、令和6年度には規準点検を実施し、危険な遊具について地域と協議を行った。また、子ども会連絡協議会への事業費・運営費の補助、共生交流プラザ等で活動する母親クラブへの補助など地域活動への支援を通じて、補助団体で活動する人数も徐々に増え、地域が主体的に子育て支援事業を行う環境づくりができた。
-----------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	児童遊園地の遊具等の劣化が年々進行しているため、危険な遊具等については、引き続き管理者と協議しながら、修繕や撤去など適切な管理を促す。その他、引き続き地域活動を支援することで、地域ぐるみでの子育て環境を確保していく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	全国的に核家族化による孤独・孤立への不安が増大するとともに、地域のつながりも希薄化しているのが現状である。民生児童委員や地域活動団体等と適切に連携し、地域が主体となって子育てを支え、子どもたちを見守る環境をつくることができるよう、継続的に支援していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 11月 13日

中施策事業名	子育て支援センター事業	部課名	健康福祉部・子育て支援課
		作成者	松村 清子
①めざすまちの姿	28 子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている		
②大施策	子どもを安心して産み育てられるまちをつくる		
③中施策	家庭や地域が子どもを大切に思い、支え合うことができるまちを醸成する		
④中施策事業の対象	児童のいる家族、関係者等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	子育て支援センターを拠点とした子育て支援事業や相談事業により、子どもとその家族が安心して楽しく子育てができています		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・子育て支援センター事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
年間利用人数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	17,000	20,000	20,000	0	0	0
	実績値	27,879	29,962				
単位	人						
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費(a+b)				15,658千円	18,182千円	
	a 事業費合計			15,658千円	18,182千円	20,288千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計		0千円	0千円
② 補助金等（収入）				11,593千円	13,199千円	16,533千円
③ コスト（①－②）				4,065千円	4,983千円	
市民一人あたりコスト （③／市の人口（評価対象年度末時点））				59 円	72 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価 A</p> <p>子育て支援センターたけのこを開所し3年が経過し、利用者に寄り添った支援のみでなく、常にニーズに合わせた催事を企画・実施し、乳幼児の子育て家庭にとって身近で利用しやすい施設となっている。(子ども・子育て支援に関するニーズ調査における就学前の子を持つ保護者の利用率は68.9%)</p> <p>コスト面では、適切に補助金を活用し市民一人当たりコストを維持。</p> <p>R6年度は、父親向け事業の実施や母子保健担当との連携強化を図り、子育て家庭の支援と体制整備を充実させた。</p>
-----------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	R6年度に1回実施した父親向け事業を定期開催し、家族全体の支援の充実を図る。共働き家庭が増え、子育て支援センター利用者の多くが3歳未満で入園される現状であり、仕事復帰と子どもの入園を目前にすると漠然とした不安を抱える親も多いため、不安が軽減でき入園後も親子が健やかに過ごせるための事業等を企画する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	支援が届いていない人に支援を届けるため、母子保健担当等と連携しアウトリーチを行い、継続的な伴走支援を行う。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 11月 11日

中施策事業名	妊娠出産子育てワンストップ事業	部課名	健康福祉部・子育て支援課
		作成者	松村 清子
①めざすまちの姿	28 子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている		
②大施策	子どもを安心して産み育てられるまちをつくる		
③中施策	家庭や地域が子どもを大切に思い、支え合うことができるまちを醸成する		
④中施策事業の対象	妊娠期から就学前までの子どもとその親 乳幼児～小学生のいる家庭		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	妊娠期より心配なことがあれば相談することができ、安心して子育てでき、子どものいる親が安心して働くことができています		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	ネウボラ推進（情報発信、支援プラン、ファミサポ、産後ケア事業・養育支援訪問、関係機関との協議会）、家庭訪問		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
支援プラン作成件数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	50	50	50	0	0	0
	実績値	53	197				
単位	延件数						
ふあみさぼ利用件数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	3,000	3,000	3,000	0	0	0
	実績値	3,407	2,358				
単位	延件数						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				171, 011千円	160, 789千円	
	a 事業費合計			171, 011千円	160, 789千円	172, 681千円
	人 件 費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
② 補助金等 (収入)				125, 333千円	116, 397千円	96, 509千円
③ コスト (①－②)				45, 678千円	44, 392千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				664 円	645 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価 A</p> <p>妊娠期からの切れ目のない支援を実施するために、こども家庭センターを設置し、母子手帳交付時からすべての妊婦に保健師等専門職が関わることで早期に関係機関と連携した支援を実施できた。伴走型支援と一体的に経済的支援も行い、支援の充実を図っている。支援プランは件数が増えており、利用者に合わせた支援が展開できていると分析する。ふあみさぽ利用件数は誤差の範囲内だと考える。</p> <p>コスト面については、妊娠者数・出生数の減少により令和5年度より出・入ともに減少。国や県の補助金を活用できるよう体制を整え、コスト削減を継続して努めていく。</p>
-----------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	産後ケア及び子育て世帯訪問支援事業を充実し、産後に安心して子育てができる環境の整備を拡充し、育児困難感を早期に解消しスムーズな愛着形成を図る。また、低所得妊婦の初回産科受診料を補助し、妊娠初期からのサポートを充実することで安心・安全な妊娠期＝出産を迎えられるように経済的にも支援していく。地域全体に対しては、子どもと子育て家庭への深い理解を促し温かい地域づくりの機運を成熟するため、市内事業所に子連れ出勤普及啓発事業の委託を継続し推進していく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	よりこども家庭センターとして情報連携を密にするために、定例的な情報共有だけでなく随時必要に応じて情報連携を強化する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 6月 18日

中施策事業名	児童手当給付事業	部課名	健康福祉部・子育て支援課
		作成者	松村 清子
①めざすまちの姿	28 子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている		
②大施策	子どもを安心して産み育てられるまちをつくる		
③中施策	ゆとりを持って男女共に子育てを楽しむことができるよう応援する		
④中施策事業の対象	児童及びその家族等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	支援をもれなく受けることにより、経済的負担が軽減し、ゆとりある生活が送れるようになっている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 児童手当給付事業 ・ 特別児童扶養手当給付事業 ・ その他臨時特別給付事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
現況届回収率	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	100	100	100	0	0	0
	実績値	88.9	100				
単位	%						
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額	
				令和05年度	令和06年度	令和07年度	
① 総事業費 (a+b)				1, 188, 415千円	1, 168, 516千円		
	a 事業費合計			1, 188, 415千円	1, 168, 516千円	1, 478, 947千円	
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人		
			b 金額	0千円	0千円		
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人		
			金額	0千円	0千円		
			人件費合計			0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)			928, 327千円	1, 014, 906千円	1, 339, 328千円
③ コスト (①－②)			260, 088千円	153, 610千円			
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				3, 779 円	2, 232 円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価A 児童手当の現況届が原則不要となり、要届出対象者にももれなく手続きを行うことができた。また、令和6年10月分より所得制限がなくなり、支給対象年齢も18歳まで引き上げられ、支給額も第3子以降は3万円に増額された。制度改正による対象者を抽出し、申請勧奨を行いもれなく支給できるように努めた。
-----------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	児童手当制度の改正に伴い、多子加算の要件の拡充、増額が行われたが、年度の更新に伴う多子加算の算定対象者への案内は初めてとなるため、対象者への案内を行い、もれなく手続きを行う。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	今後も国からの子育て世帯への経済的支援が強化されていく中で、子ども・子育て支援施策の動向や子育て世帯のニーズを把握し、真に必要とされる子育て世帯への支援について検討・調整し、子供を安心して生み育てられるまちづくりに貢献する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 6月 30日

中施策事業名	子ども子育て計画事業	部課名	健康福祉部・子育て支援課
		作成者	松村 清子
①めざすまちの姿	28 子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている		
②大施策	子どもを安心して産み育てられるまちをつくる		
③中施策	ゆとりを持って男女共に子育てを楽しむことができるよう応援する		
④中施策事業の対象	子ども、子育てに携わる人		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	次世代を担う子どもたちが安心して生き生きと健やかに成長し、子どもを安心して生み育てられ、子育てするなら豊明市と思われるまちになっている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・子ども子育て支援事業計画策定・進行管理 ・子ども・子育て会議		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
計画中に対象となる子どもの受入体制が維持できていない事業数（全13事業中）	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
	単位 事業						
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
	単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額	
				令和05年度	令和06年度	令和07年度	
① 総事業費 (a+b)				2, 180千円	3, 343千円		
	a 事業費合計			2, 180千円	3, 343千円	10千円	
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人		
			b 金額	0千円	0千円		
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人		
			金額	0千円	0千円		
			人件費合計			0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)				0千円	0千円
③ コスト (①－②)				2, 180千円	3, 343千円		
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				32 円	49 円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価A</p> <p>令和5年度に実施したニーズ調査をもとに、各種子育て支援施策の量の見込みを算出し、第3期子ども・子育て支援事業計画を6年度中に策定した。ニーズ調査では就労する母親が増加し、特に3歳未満児の保育ニーズが高いことから、幼稚園の認定こども園化等により量の見込みを増やすことを定めた。第2期計画からの大きな変更点としては、子ども視点の基本目標を掲げて施策を盛り込み、また、産後ケア事業等支援を必要とする方への施策を充実させ、めざすまちの姿等の実現を図ることとしている。</p>
-----------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	「こどもまんなか社会」の実現に向け、第3期子ども・子育て支援事業計画でも基本目標とした子どもの権利についての啓発を実施する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	令和6年度に策定した第3期子ども・子育て支援事業計画に沿って、子どもの権利条例の制定を目指し、子どもの健やかな育ちと子育てを社会全体で支援していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) こども計画の策定	内容、理由、時期等 こども基本法に基づく、市町村こども計画を策定する必要があるため、適切な時期に内部協議や子ども・子育て会議にて協議をしていく。
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 11月 6日

中施策事業名	児童発達支援センター事業	部課名	健康福祉部・子育て支援課
		作成者	松村 清子
①めざすまちの姿	30 子どもの個性や感性を尊重し、伸ばしている		
②大施策	子どもの個性や感性を尊重し、伸ばす環境をつくる		
③中施策	好きなことができるように周りの大人の理解を深め、支援できるようにする		
④中施策事業の対象	障がい児及びその家族、関係者等 (障がい児疑い含む)		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	障がいに応じた療育支援や相談を受けることにより、不安が解消され、将来への見通しが持てるようになる		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童発達支援事業 ・ 保育所等訪問支援事業 ・ 親子療育教室（たんぽぽ教室） ・ 発達評価、保育園等巡回相談事業 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
保護者等からの事業所評価において、各項目を達成していると回答があった割合	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	80	85	85	85	0	0
	実績値	82	89				
	単位	%					
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
	単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				144, 733千円	97, 739千円	
	a 事業費合計			144, 733千円	97, 739千円	95, 240千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計		0千円	0千円
		② 補助金等（収入）				38, 150千円
③ コスト（①－②）				106, 583千円	51, 598千円	
市民一人あたりコスト （③／市の人口（評価対象年度末時点））				1, 549 円	750 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価 A</p> <p>保護者からの事業評価において、適切な運営にかかる評価項目を達成していると回答があった割合は89%と、目標を大きく上回った。障がい児の保護者の孤立の防止や情報交換ができるよう、サロンや懇談会を実施した。</p>
-----------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	児童発達支援センターを利用している者及び利用していた者の保護者のみで自由に情報交換等を行うことができる場を提供し、障がい児のいる家庭の孤立防止や情報共有の促進を行う。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	障がい児の療育環境の向上を図るため、保護者等を対象とした家族支援プログラムを行う。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等